

対照表作成時の覚え書き

Glaboniat u.a. (2005)における語彙のレベル記述の際の特徴

- ・ 単語より表現レベルで記述していることも多く、特に動詞・形容詞・副詞については、用法との関連から、この語彙のレベルはこれと、確定的に言えないケースが多い。(その場合、対照表に挙げる際は、岩崎が適宜判断した)
- ・ 国名(地域名)・言語名(国名形容詞)・〇〇人という表現は、ドイツ・オーストリア・スイス・イタリアのみは、ほぼ全て登録されているが、それ以外の国は、フランスなどの欧州の隣国を含め、それぞれ国名だけ、言語名だけ、〇〇人という表現だけ、あるいは記載なしと、扱いに一貫性がなく、具体的なレベル記述もない。(そもそも記載されていない語彙には×を、記載されているがレベル記述が無いものには△を付けた)
- ・ 数詞は eins 以外は登録されていない。(数詞は記載されていなくても原則としてすべて△を付けた)
- ・ 人称代名詞は、原則として1格の形のみしか登録されていない。(3・4格の形にも1格と同じ情報を載せた)
- ・ スポーツ名、楽器名、学問名や授業科目名等はいくつか登録されているが具体的なレベル記述はない。(原則として、記載されていれば△を付けた)
- ・ 冷たい飲み物は個々に登録されているが、温かい飲み物は、はっきりとした記述はない。(同上、ただし、Kaffee/ Tee については関連する語彙のレベル記述から A1-A1 と判断した)
- ・ 前綴り zurück-を含む動詞は zurückgeben しかないが、zurück-自体が A2-B1 として登録されている。(個々に記載されていなくても△を付けた)
- ・ たとえば Fußballspieler のような具体的な「〇〇選手」という表現はないが、接尾辞-spieler 自体は A2-B1 として登録されている。(A2-B1 とした)

Tschirner(2008)における頻度順位記述の際の特徴

- ・ 言語名は、国名形容詞としてのみ登録されている。(言語名と見なして扱った)